

脳卒中が疑われる患者を函館市等の脳神経外科病院へ  
直接搬送する体制確保等に関する提言(案)

医療過疎地域における救急医療体制の確保は、都市部と比較すると、人員や設備等において極めて困難な状況となっております。

当圏域は函館市から80～120キロ程離れていますが、道南ドクターヘリの運航や各関係機関の御協力により脳卒中患者の救命率が向上してきています。

しかし、ドクターヘリが運航できない夜間や悪天候時には、救急告示病院等で受け入れた患者は、救急車で脳神経外科病院に搬送することとなり、2から3時間のタイムロスが生じています。

こうした現状に鑑みますと、夜間等の救急患者を函館市等の脳神経外科病院へ「直接」搬送することができれば、早期に血栓溶解療法(t-PA 療法)等の治療が可能となり、治療後の回復にも大きなメリットが見込まれるものと考えます。

つきましては、医療過疎地域の現状を踏まえた救命活動の向上に資するため、次の二点について貴協議会に御加盟の各関係機関に対して働きかけていただきますようお願い申し上げます。

記

1. 脳神経外科病院との協力体制の構築

脳卒中が疑われる患者のうち『意識清明、軽度障害、現役世代(70代以下)』の患者については、函館市等の脳神経外科病院へ「直接」搬送する新たな協力体制の仕組みを構築すること。

2. 医療機関の協力体制の確保

搬送途中における患者の急変時は、近隣の医療機関で可能な限り患者を受け入れるよう努力すること。

道南圏メディカルコントロール協議会座長 様

令和6年 3月 日

北渡島檜山保健医療福祉圏域連携推進会議 兼  
北渡島檜山保健医療圏域医療構想調整会議  
会 長 中 島 光 弘

脳卒中が疑われる患者を函館市等の脳神経外科病院へ  
直接搬送する体制確保等に関する提言(案)

医療過疎地域における救急医療体制の確保は、都市部と比較すると、人員や設備等において極めて困難な状況となっております。

当圏域は函館市から80～120キロ程離れていますが、道南ドクターヘリの運航や各関係機関の御協力により脳卒中患者の救命率が向上してきています。

しかし、ドクターヘリが運航できない夜間や悪天候時には、救急告示病院等で受け入れた患者は、救急車で脳神経外科病院に搬送することとなり、2から3時間のタイムロスが生じています。

こうした現状に鑑みますと、夜間等の救急患者を函館市等の脳神経外科病院へ「直接」搬送することができれば、早期に血栓溶解療法(t-PA療法)等の治療が可能となり、治療後の回復にも大きなメリットが見込まれるものと考えます。

つきましては、医療過疎地域の現状を踏まえた救命活動の向上に資するため、次の二点について取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

記

1. 消防署の人員の確保

函館市内等へは長時間の救急搬送に対応できる人員の確保を行うこと。

2. 救急救命士の体制の整備

搬送途中の急変時、傷病者の状況に即した対応が求められるため、救急救命士の養成と確保に努めること。

檜山広域行政組合消防長 様

令和6年 3月 日

北渡島檜山保健医療福祉圏域連携推進会議 兼  
北渡島檜山保健医療圏域医療構想調整会議  
会 長 中 島 光 弘

# ドクターヘリが使えない場合の 脳卒中が疑われる患者の救命に向けた体制整備（案）

